

先端バイオメカトロニクス技術を用いたトップアスリート養成システム開発研究事業



コーチングにおける課題

- ◆ **コーチング法の科学的根拠の解明**
 スポーツ科学の成果は、コーチングの現場では必ずしも生かされていない。
 ⇒コーチが使う、例えば”重心”という用語は、物理的な意味での重心と同じであるかどうか等の疑問に真剣に取り組んでいない。
- ◆ **個々の選手の特性に応じた練習法確立の必要性**
 スポーツ科学の一般性は、必ずしも個々の選手に適さない。
- ◆ **コーチング現場における先端技術導入**
 スポーツ科学とコーチングの分離
 ⇒現場では、感覚的・職人的指導が引き続きなされている。

- 集中的科学データ収集と分析 (多数の準トップ選手)
- トップ選手に対する 特殊ピーキング例の導出 (少数のトップ選手)

- ### 期待される効果
- ・ トップ選手の競技力の飛躍的向上
 - ・ コーチング法の科学的視点での解明
 - ・ 新しいコーチング法の確立
 - ・ 新しいスポーツ計測技術、機器の開発
 - ・ スポーツ生理学・スポーツ医学の発展

- ### 将来への波及効果
- ① スポーツ普及による健康増進
 - ② 病气予防効果による医療費削減
 - ③ 産業の発展、地域の活性化